



上越総合病院

地域連携センター便り

2017
6月号



初夏の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また平素より当院に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

私こと 上越総合病院副院長の命を受けこの4月に着任いたしました。前任の長岡中央総合病院には20年勤務しておりましたので、久々の新しい環境でのスタートに身が引き締まる思いがしております。長岡中央総合病院では吉川前院長、そして4月より新院長になられた富所先生の元で消化器内科医として本当に恵まれた環境でのびのびと仕事をさせていただき感謝しております。

私は新潟県出身で、幼少時には教員であった父親の関係で県内数か所を転居しましたが、小学2年生からは新潟市で暮らし、そのまま新潟高校、新潟大学と進んだため上越地区で過ごすのは今回が初めてとなります。まだ2か月ほどですが、長野や富山、金沢との近さを改めて実感し、そして環境や文化の違いに少し驚いているところもあります。

さて私はこの度開業された武井伸一の後任として赴任してまいりました。まずは武井先生が一から築かれた消化器内科を引き継ぎ、さらに発展させることが私の役目と考えております。新潟労災病院の消化器内科診療の休止に伴い、今後上越地区における当科の役割はますます重要になっていくと強く感じております。すでに院内では外科、放射線科、病理の先生方と密に連絡を取りながら診療に努めておりますが、今後は県立中央病院や市内の病院の先生方、そして開業医の先生方とも連携しながら、地域の皆様に信頼される良質な医療体制を作っていきたいと考えております。

またもう一つ重要と考えていることは医学教育を通しての地域への貢献です。箆島新院長も折に触れておっしゃっておられますが、これからは私共のような地域に根差した病院でも医学生、研修医、そしてコメディカルの育成に積極的に関与していくことが大切であり、そうしたことが病院の発展にも欠かせない時代になってきていると思います。先生方におかれましては是非ともご理解の上、ご協力をお願いしたいと存じます。

まだまだ不慣れな点が多く、先生方にはご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますが、地域連携を通じて上越地区の医療に貢献していく所存ですので、より一層のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

副院長 佐藤 知巳



医療機関様からのご紹介・お問い合わせは

上越総合病院 地域連携センター

電話 025-524-3000 (代表)

FAX 025-524-3140 (直通) まで

上越総合病院での私の仕事について

外科部長 伊達 和俊



平成28年8月31日に新潟労災病院を退職し9月1日より当院外科に勤務しております。専門は消化器疾患の外科診療になりますが、近年は、多職種共同のチーム医療が院内で重要な役割を占めることとなっており、当院の緩和ケアチームと感染制御チームにも参加することになりましたので、今回はこの二つのチームに関して述べさせていただきます。

まずは、緩和ケアチームについてですが、看護師、薬剤師、検査技師、リハビリ技師、ソーシャルワーカー、医療事務等の多業種の方々と入院中のがん患者さんを中心に週に1回ミーティングを行っております。現在、日本人の2人に1人はがんになるといわれており、多くのがん患者さんが当院でも治療されております。がんになると、身体的な痛みだけでなく、家族や周りに負担をかけているのでは、といった精神的な辛さや、療養費用の面で今後の不安、といった様々な要因が、患者さんの負担になるといわれております。これらの負担をできるだけ改善するには、医師一人では十分な対応はできず、多職種の協力が必要です。そのような辛さを感じている患者さんや、そういった患者さんを受け持つ医療者が相談しやすい環境を整えていきたいと思っております。また、労災病院時代には、患者さん同士が情報を共有していく、胃切除術後患者の会の立ち上げに協力させていただいており、今後は当院の患者さんにも参加を呼びかけて継続していくことで、上越地域全体の患者さん同士が交流し、少しでも辛さを共有できる場所を提供できるようにしていく予定です。

感染制御チームに関しては外科疾患のみならず、内科的疾患、環境整備から院内外の感染制御といった、外科疾患とかけ離れた専門外の内容も多く、外科的知識では全く役に立たない状態で、まさに多職種混成のチーム医療が必要な分野と考えられます。診療面においては、抗菌薬がその中心的な役割を持つのですが、その他の薬と違い、抗菌薬は、投与された患者さんだけでなく、周囲の環境まで変えてしまう力を持つ薬です。耐性菌の出現は近隣の病院、施設にも影響を与えかねません。感染制御チームでは抗菌薬の使用状況や耐性菌の出現状況を確認し、他病院との情報の共有も行うようになってきました。

緩和ケアチームの活動も感染制御チームの活動も、ともに病院内にとどまらず、上越地域全体を視野におく必要性がでてきました。新潟労災病院勤務時代から数えると、上越の医療に15年以上携わってきており、今後外科診療はもとより、広い視野で地域医療を支えられるようになれるように努力していきたいと思っております。皆さまのご指導を今後もよろしくお願いいたします。



上越総合病院 看護部渉外委員会

看護の日



5月12日はフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ1965年に「看護の日」として制定されました。趣旨は21世紀の高齢化社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、私たち一人一人が分かち合うことが必要です。こうした心を、老若男女を問わず誰もが育むきっかけになるよう各病院、施設でイベントが行われています。

看護の日の前後、一週間が看護週間とされ当院、上越総合病院も看護部渉外委員会が中心となり病院の外に出て例年、市民に対しイベントを企画しています。今年は5月11日上越市富岡にある上越ショッピングセンターアコーレへ出向き、唾液中のアミラーゼでストレスを測定するストレスチェック、アロマオイルによるリラクゼーションコーナー、血圧測定、体脂肪測定を行い、「健康や看護、助け合いの心を考え直す機会になれば」とイベントを開催しました。



血圧測定



ストレスチェック



アロマオイルによるハンドマッサージ



新潟厚生連 上越総合病院 医師一覧表

H29年6月現在

内科	呼吸器	外山 譲二	外科	乳腺外来	藤田 亘浩
	呼吸器	月岡 啓輔			伊達 和俊
	呼吸器	竹内 寛之			小出 則彦
	消化器	佐藤 知巳			藤田 加奈子
	消化器	合志 聡			平島 浩太郎
	消化器	鈴木 庸弘	呼吸器外科		尾嶋 紀洋
	消化器	禿 晃仁	脳神経外科		江塚 勇
	消化器	佐藤 毅昂			荒川 泰明
	腎・糖尿病	亀田 茂美		非常勤医師	亀山 茂樹
	腎・糖尿病	米沢 正貴	産婦人科		相田 浩
腎・糖尿病	上野 光博			小幡 宏昭	
糖尿病内分泌	笹岡 利安			廣井 威	
糖尿病内分泌	岡部 圭介			堀内 綾乃	
血液	野村 憲一			奈良本 葉月	
和漢	藤本 誠	耳鼻咽喉科		非常勤医師	高倉 大匡
和漢	野上 達也	非常勤医師		阿部 秀晴	
呼吸器	清水 夏恵	眼科		佐藤 昭一	
総合診療科			大堀 高志		阿部 慎也
			麻生 祐嗣	非常勤医師	東條 直貴
			今西 明	非常勤医師	三原 美晴
		近藤 優美	非常勤医師	宮腰 晃央	
循環器内科		籠島 充	整形外科		渡部 公正
		長谷川 智也			相場 知宏
		中澤 峻		非常勤医師	東條 猛
		西脇 溪		非常勤医師	金森 昌彦
神経内科		福原 信義	泌尿器科	非常勤医師	元村 拓
		鈴木 隆			里見 定信
	非常勤医師	春日 健作			安川 瞳
	非常勤医師	徳武 孝允	非常勤医師	渡部 明彦	
	非常勤医師	小松 潤史	皮膚科		竹上 與志昌
	非常勤医師	畠山 公大	救急科		丸山 正則
	非常勤医師	赤木 明生	麻酔科		朝日 丈尚
小児科		土谷 修一			加藤 晋
		中山 有美			加藤 麻紀子
	非常勤医師	雅楽 川隆	放射線科		加藤 洋
歯科口腔外科		桑原 徹	病理診断科		関谷 政雄
検査科		巻 瀨 隆夫			

早朝検査の実施について (予約患者様のみ)

当院では、外来患者様の待ち時間を短縮する取り組みとして、検査の受付時刻を従来の8時30分より30分早めて行っております。それにより患者様にはスムーズに診察を受けて頂けると考えております。